



# 総合サービス力のさらなる強化に向けて 通貨オプション取引システムを更改

## 2システムのアーキテクチャ・基盤統合で将来にわたる拡張性を担保

### 背景

総合サービス力のさらなる強化の一環として、通貨オプション取引システムを更改する。連携する旧2システムについて将来にわたる拡張性を担保。システム利用者が作成していたEUCツールの機能を取り込みたいと考えた。



株式会社みずほ銀行  
IT・システム統括第二部  
市場系システム推進チーム  
調査役  
齊藤 彩子氏



株式会社みずほ銀行  
市場営業部  
営業管理チーム  
宮田 奈緒子氏

### ソリューション

複数のSI事業者の中から、提案の実現性などを基に新日鉄住金ソリューションズをITパートナーに選択。旧2システムの機能を継承しながら、アーキテクチャとDBなどの基盤を統合し、リッチクライアント技術で操作性を高める。

### 成果

大規模なシステム更改プロジェクトだったが、計画通り本格運用を開始。システムの拡張性が担保され、業務効率が改善した。特にEUCツールの機能を取り込んだことで、新商品開発が大幅にスピードアップしている。

### 総合サービス力のさらなる強化へ、旧2システムの更改を計画

みずほフィナンシャルグループの中核として国内最大級の顧客基盤や国内外の拠点ネットワークを誇るみずほ銀行。『One MIZUHO』のスローガンのもと、総合力を生かして、幅広い個人・法人顧客へ多面的・有機的な金融サービスを提供している。

同行が通貨オプション取引システムの更改を本格的に検討し始めたのは2013年2月ごろである。みずほ銀行は当時、営業店向けの「WebForce」と本部向けの「WebForcePlus」を連携させて運用していたが、アーキテクチャが異なる、データベース(DB)を別々に保持するなど保守が複雑になっていた。同行はシステムの保守期限到来を契機に更改を計画。将来にわたる拡張性を担保しつつ、EUC(エンドユーザーコンピューティング)ツールの機能を取り込んだ新システムを構築したいと考えた。

### 提案の実現性を基にNSSOLを選択、アーキテクチャと基盤を統合

みずほ銀行は、複数のSI事業者にシステム更改の提案を依頼。その中から、提案の実現性などを基に新日鉄住金ソリューションズ(以下、NSSOL)をITパートナーに選択する。NSSOLの提案は、旧2システムの機能を継承しながら、アーキテクチャとDBなどの基盤を統合し、リッチクライアント技術で操作性を高めるものだった。

システム更改プロジェクトは、2013年9月にスタート。みずほ銀行はプロジェクトの早い段階でシステム利用者によるユーザー受け入れテストを実施し、新システムの品質や操作性を改善した。NSSOLは、豊富な業務知見と技術力で、開発中に発生した課題に対して迅速に対処。要望通り、EUCツールの機能についても新システムに取り込み、簡単な画面操作で利用できるようにしている。

### システムの拡張性が担保され、商品開発などの業務効率が大幅に改善

大規模なシステム更改プロジェクトだったが、Javaの3層Webアーキテクチャで再構築された新WebForceは2015年3月に予定通り、本格運用を開始している。

みずほ銀行が得た成果は大きい。まず、システムアーキテクチャと基盤の統合に伴って、保守が格段に容易になり、将来にわたるシステムの拡張性が担保された。また、リッチクライアント技術の採用やEUCツールの取り込みによって業務効率が大幅に改善している。特に商品開発は、複数商品の組み合わせや基本商品のカスタマイズなどが簡単な画面操作で実行できるなどで、大幅にスピードアップした。

みずほ銀行は今後、勘定系システムの統合や市場ニーズの変化に合わせて、新WebForceの機能を継続的に拡張・発展させていく計画である。

## Key to Success

みずほ銀行が通貨オプション取引システムを更改したのは、勘定系システムの統合や市場ニーズの変化に合わせて、システムを継続的に拡張・発展できるようにするためである。

IT・システム統括第二部 市場系システム推進チーム 調査役の齊藤彩子氏は「旧2システムは開発当時の最先端技術を採用していましたが、アーキテクチャが異なり、DBも別々でした。新機能を追加したり法規制の変更に合わせて改修したりする際に複雑な保守が必要で、抜本的な対策が必要になっていました」と語る。

市場営業部 営業管理チームの宮田奈緒子氏は「経営統合に伴って、中堅中小企業から大企業までの幅広いお客様に対応した商品を扱えるようになる必要がありました。旧2システムは中小企業向けの商品が対象で、必要に応じてEUCツールで大企業向けの商品を開発してきましたが、いずれEUCツールの機能をシステムに取り込みたいと考えていました」と話す。

システム更改を支援するSI事業者の選定でポイントとなったのは、提案内容の実現性の高さだった。

齊藤氏は「NSSOLの提案は、基本的に基盤部分を統合するものですが、保守期限までに確実に実現でき、システム利用者の再トレーニングが不要になるなどの利点がありました。大規模な金融システムの更改であるため、開発体制の構築力、通貨オプション取引に対する業務理解度などについても評価しました」と選択理由を述べる。

プロジェクトでは、ユーザー受け入れテストを、開発の早い段階で行った。

齊藤氏は「新システムは、通貨オプション取引の複雑な処理を正確に実

行するとともに、EUCツールのきめ細かな機能を利用者の要望に沿って実装する必要があります。システム利用者が直接確認することで、課題を早めに洗い出すことができました」と語る。

### NSSOLが迅速に課題へ対応 他社構築の旧システムも詳しく理解

システム更改プロジェクトを支援したNSSOLに対する評価は高い。

齊藤氏は「NSSOLは、課題が見つかったときの対応が大変スピーディでした。スケジュールが厳しいプロジェクトでしたが、いつも予想以上に短期間に対応してくれました」と振り返る。

宮田氏は「旧2システムは他社が構築したのですが、NSSOLは旧2システムを自ら構築したかのように詳しく理解していました」と語る。

新WebForceによってみずほ銀行はさまざまな成果を得ている。

齊藤氏は「業務・運用の効率化が計画通り実現できました。アーキテクチャと基盤を統合したので、機能追加も容易です」と話す。

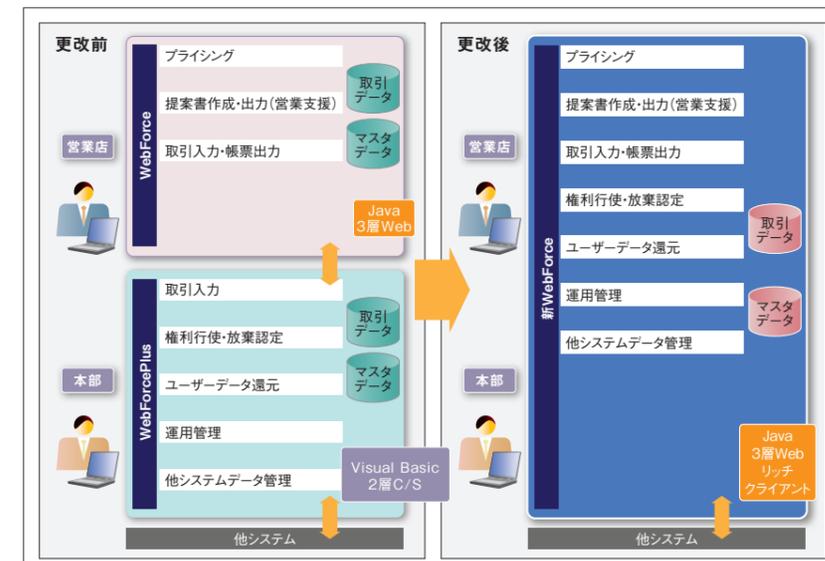
宮田氏は「新WebForceでは、システム利用者が新商品を試験的に複数開発して比較することも容易になっています。DBへ高速にアクセスできるため、収益管理などの業務もスピードアップしました」と述べる。

みずほ銀行では今後、さらに新WebForceを強化していく。

齊藤氏は「勘定系システムの統合などに合わせて、さらにシステムをレベルアップしていきます」と話す。

宮田氏は「通貨オプション取引のような市場商品は、顧客ニーズが日々変わります。今後もシステムを進化させていきますので、NSSOLにはこれからもご支援をお願いします」と語る。

### ■みずほ銀行が更改・統合した通貨オプション取引システム「WebForce」の概要



「WebForce」「WebForcePlus」はみずほ銀行社内システムの名称

### ■コアテクノロジー

システム基盤統合、データベース統合、Java、UX/UI、リッチクライアント

### ■システム概要

●サーバー：24台 (Windows、Linux) ●ミドルウェア：Oracle WebLogic Server、Oracle Database 11g、Nexaweb ●アプリケーション：通貨オプション取引システム「WebForce」

MIZUHO

株式会社みずほ銀行  
所在地：東京都千代田区大手町1-5-5  
発足：2013年  
資本金：1兆4040億円(2015年3月31日現在)  
経常収益：単独2兆2382億円/連結2兆4769億円  
(2015年3月期)  
従業員数：単独2万6561名/連結3万4528名(2015年3月31日現在)